

第7章 昆虫類

7-1. 昆虫調査

7-1-1. 目的

昆虫調査は、東環状大橋(仮称)建設事業の実施に伴い、自然環境のモニタリングの一環として、昆虫類に関する現状を把握することを目的として実施した。

7-1-2. 調査内容

昆虫調査の概要は表 7-1-1 に示すとおりである。

表 7-1-1(1) 昆虫調査の総括

項目	調査内容	
概要	現地調査は、時期により昆虫の種が変わることを想定して1回/月(計12回)の頻度で実施した。調査方法は、設定した調査ルートにてスウィーピング、ピーティング、目視観察、任意採集等を行った。	
調査場所	調査場所は、吉野川河口部左岸側の河口干潟、上流干潟、グラウンド縁の草地、船着き場付近のヨシ原、グラウンド下流の右岸干潟とし、堤防は含まないものとした。	
調査時期	調査回	月日
	第1回	平成17年4月8日～10日
	第2回	平成17年5月7日～9日
	第3回	平成17年6月6日～8日
	第4回	平成17年7月4日～6日、21日～22日
	第5回	平成17年8月2日～4日
	第6回	平成17年9月2日～4日
	第7回	平成17年10月5日～7日、13日
	第8回	平成17年11月1日～3日
	第9回	平成17年12月1日～3日
	第10回	平成18年1月27日～29日
	第11回	平成18年2月26日～28日
	第12「回	平成18年3月22日～24日
現地調査	任意採集法	目視により昆虫類を発見し採集する方法である。手で捕まえる場合をルッキング、捕虫網により捕まえる場合をネッティングという。ルッキング法では、倒木や石の下等網を利用できない場所に生息する種や地面を徘徊する種を採集し、ネッティング法では、主に飛翔中のチョウ類やトンボ類を採集した。また、河口干潟においては、日没後3時間程度、夜間採集を実施した。
	スウィーピング法	木や草等を捕虫網ですくって採集する方法である。特定の昆虫類を狙った採集方法ではなく、木や草の上に静止しているすべての昆虫類を対象としたものであり、様々な昆虫類を採集することが可能である。
	ピーティング法	木の枝や草、花等を棒で叩き、その下に網を差し込んで、落ちてきた昆虫類を採集する方法である。叩くものについている昆虫類(小型の種類等)を、効率よく採集することができる。
	ライトトラップ法	夜間、灯火に集まる昆虫類の性質(正の走光性)を利用して採集する方法であり、広範囲の昆虫類を集めることが可能である。対象となる種は、主にコウチュウ類やガ類等である。調査手法はカーテン法とし、白色のスクリーン(カーテン)を見通しの良い場所に張り、その前に光源を吊して点灯し、スクリーンを目がけて集まる昆虫類を、吸虫管、殺虫管、捕虫ネットを用いて採集する方法である。光源としてブラックライト及び白色蛍光灯を用いることとし、トラップの設置地点は河口干潟2地点、右岸干潟1地点とし、日没後3時間実施した。
	ベイトトラップ法	誘引餌(ベイト)を用いて、それ集まる昆虫類を採集する方法で、主にゴミムシ類やアリ類等の地表徘徊性の種を対象とする。トラップは、プラスチックカップを地面と同じレベルに口がくるように埋め、その中に餌を入れたものとした。前日に設置し、翌朝に回収した。餌としてエチレングリコールと腐肉を用いた。設置箇所は上流干潟2地点、河口干潟3地点、右岸干潟1地点の計6地点とし、1地点あたり20個設置した。
アドバイザー	永井 洋三氏 日本昆虫学会会員 大原 賢二氏 徳島県立博物館自然課長	
留意事項	既存調査結果及び学識経験者へのヒアリングから、重要な昆虫類として、キアシハナダカバチモドキ(国:情報不足、県:-)、ルイスハンミョウ(国:絶滅危惧I類、県:準絶滅危惧)、オオヒョウタンゴミムシ(国:準絶滅危惧、県:準絶滅危惧)、コガタヒメサビキコリ(国:-、県:準絶滅危惧)の生息が推察されたため、注意し確認に努めた。	

表 7-1-1(2) 昆虫調査の総括

項目	調査内容
室内分析	現地において種の同定が困難な種については、標本を持ち帰って、同定する。なお、同定にあたっては、必要に応じて学識経験者の意見を参考にすることとした。
結果整理・とりまとめ	調査成果を報告書としてとりまとめる。なお、貴重種の確認位置、ベイトトラップ位置については座標データとして整理する。また、標本については徳島県博物館自然課に提出することとした。

7-1-3. 調査位置

調査位置は、図7-1-1に示すとおりである。

なお、本年度の調査では、原則として、昨年度と同一の調査地点で実施することとしたが、昨年の台風によって河口干潟の一部の地形が改変され、ライトトラップ St.1 及びベイトトラップ St.3 については、夜間調査時の安全性が確保できないため、やや下流側にずらして設置した。

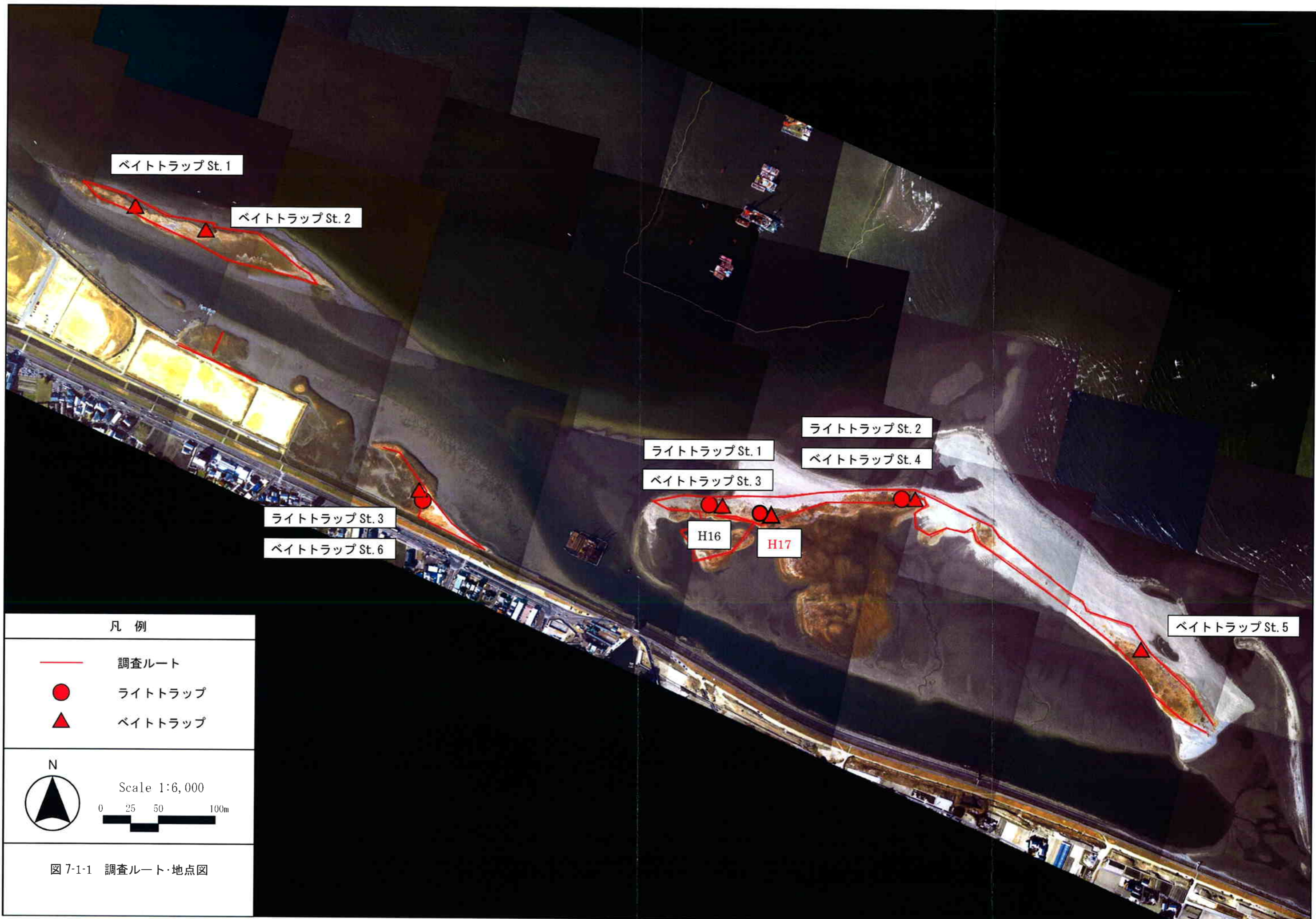


図 7-1-1 調査ルート・地点図

7-1-4. 調査結果

(1) 確認種

現地調査の結果、13目 123科 406種の昆虫類が確認された。確認された目別種数を表 7-1-2 及び図 7-1-2 に、調査地区別の目別種数を表 7-1-3 及び図 7-1-3 に示す。

全体としてコウチュウ目とチョウ目が多くを占めた。

河口干潟が 13目 112科 388種と最も多く、次いで住吉干潟(岸部)が 8目 43科 164種、グラウンド脇が 9目 55科 102種、住吉干潟(中洲)が 11目 46科 84種となっており、右岸ヨシ原の 6目 26科 36種と最も少なかった。

表7-1-2 昆虫類目別種数

目名	科数	種数	比率
トビムシ	1	1	0.2
トンボ	2	3	0.7
ゴキブリ	1	2	0.5
バッタ	9	23	5.7
カマキリ	1	1	0.2
ハサミムシ	2	4	1.0
カメムシ	18	58	14.3
アミメカゲロウ	2	3	0.7
コウチュウ	28	133	32.8
ハチ	10	25	6.2
ハエ	30	48	11.8
トビケラ	1	1	0.2
チョウ	18	104	25.6
13目	123科	406種	-

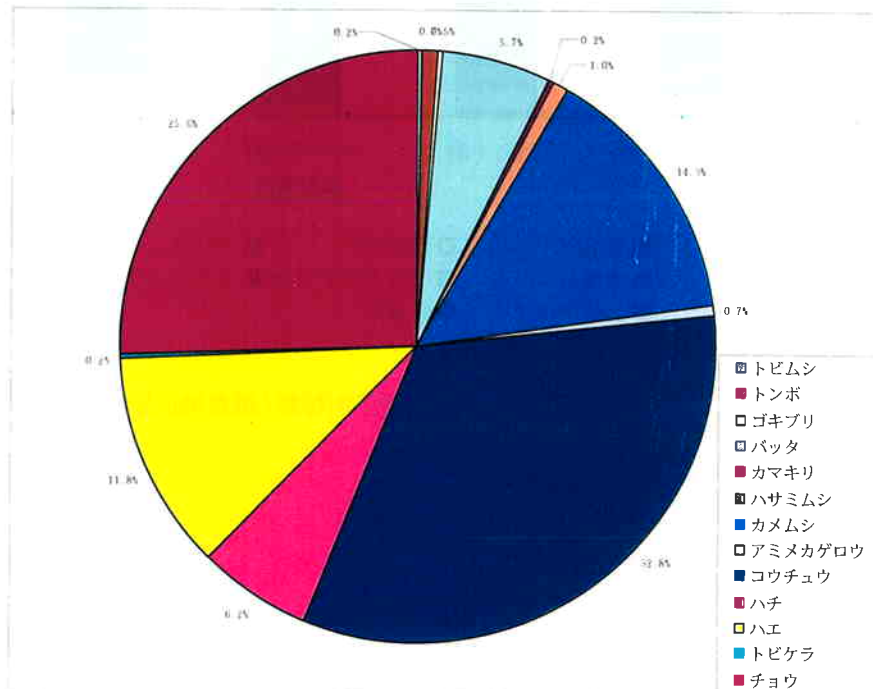


図7-1-2 昆虫類目別種数

表7-1-3 昆虫類目別種数(調査地区別)

目名	住吉干潟(中洲)			河口干潟			右岸ヨシ原			グラウンド脇			住吉干潟(岸部)		
	科数	種数	比率(%)	科数	種数	比率(%)	科数	種数	比率(%)	科数	種数	比率(%)	科数	種数	比率(%)
トビムシ	1	1	1.2	1	1	0.3	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
トンボ	1	3	3.6	2	3	0.8	0	0	0.0	1	1	1.0	1	2	1.2
ゴキブリ	1	1	1.2	1	2	0.5	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
バッタ	3	5	6.0	9	20	5.2	0	0	0.0	3	8	7.8	2	3	1.8
カマキリ	0	0	0.0	1	1	0.3	0	0	0.0	1	1	1.0	0	0	0.0
ハサミムシ	1	1	1.2	2	4	1.0	1	1	2.8	0	0	0.0	2	2	1.2
カメムシ	4	6	7.1	17	50	12.9	6	6	16.7	8	16	15.7	4	32	19.5
アミメカゲロウ	1	2	2.4	1	3	0.8	0	0	0.0	1	1	1.0	0	0	0.0
コウチュウ	13	30	35.7	22	127	32.7	5	9	25.0	13	26	25.5	10	29	17.7
ハチ	4	9	10.7	8	24	6.2	2	3	8.3	7	9	8.8	2	10	6.1
ハエ	11	14	16.7	29	55	14.2	10	12	33.3	17	28	27.5	11	18	11.0
トビケラ	0	0	0.0	1	1	0.3	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0
チョウ	6	12	14.3	18	97	25.0	2	5	13.9	4	12	11.8	11	68	41.5
合計	46	84	-	112	388	-	26	36	-	55	102	-	43	164	-

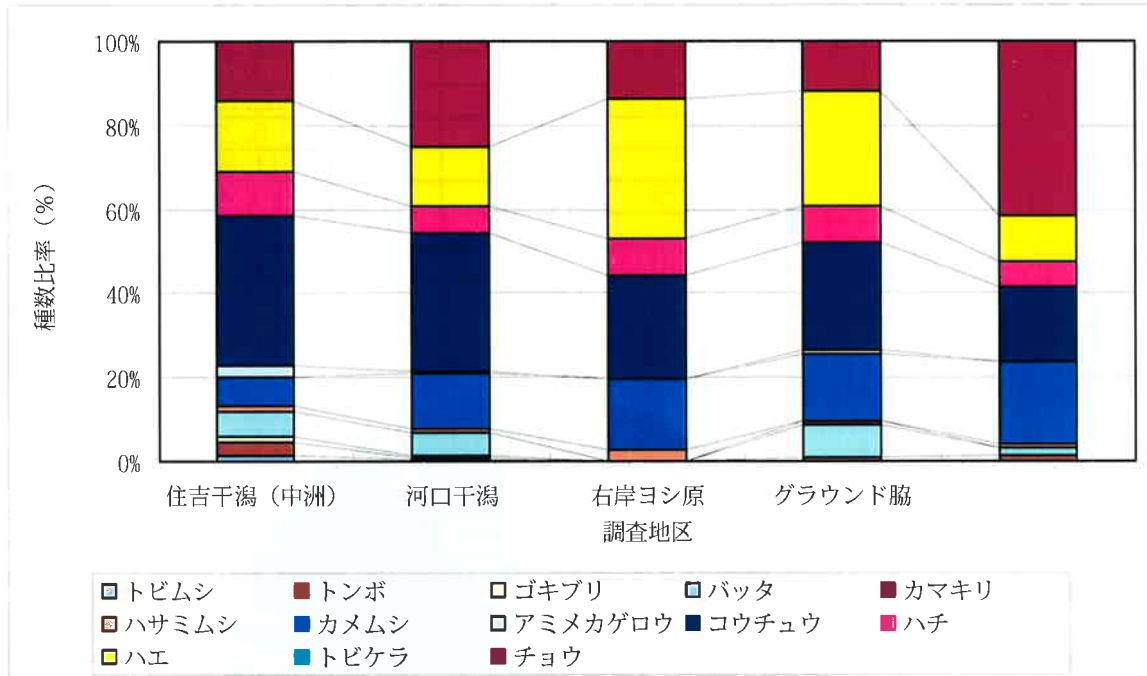


図7-1-3 昆虫類目別種数(調査地区別)

(2) 調査地域別確認状況

① 河口干潟

河口干潟で確認された昆虫類は 13 目 112 科 388 種であった。

河口干潟では、内陸部に冠水しない丘状の地形があり、生育している植物もクスノキ等の樹木を初め、様々な種類が認められ、多様性が比較的高い。このため、昆虫類の種類も多く、全体で 387 種が確認された。

特に、この河口干潟では、帰化植物のナルトサワギクを初めとする多くの草本類の開花が認められ、小型ハチ類やアブ類、チョウ目等の訪花性昆虫が花上で確認された。

確認種の内、ヤマトシロアリは干潟上に打ち上げられた材木中に営巣・生息しており、外部からこの打ち上げ材木と一緒に本干潟に侵入したものと推察される。本干潟には、本種が営巣可能な自生樹木が存在していないこと、打ち上げ材木自体の移動性も比較的大きいこと等から、以前は本種が定着することは困難と考えられ、出現は一時的なものと推察されたが、出水時に河口干潟内陸部にゴミとともに打ち上げられた材木の多くが、その後移動することなく存在しており、現在では、本種もこれらの材を中心に定着したものと推察される。

また、貴重種にもなっているルイスハンミョウを初めとする地表徘徊性の昆虫類も多く確認された。

なお、本地区では 5～7 月にかけてツトガ亜科の一種及びオオメイガ亜科の一種が確認された。特にツトガ亜科の一種についてはフタオレットガに近似しているが、明らかに外見上で区別がつく他、ゲンタリアについても相違が認められ現時点で既存文献との対比で種同定が出来ない状態であり、今後の詳細な調査が必要とされる。

② 住吉干潟（中洲）

住吉干潟で確認された昆虫類は 11 目 46 科 84 種であった。

確認された種は、コウチュウ目以外は、トンボ目、ハチ目、ハエ目、チョウ目等の飛翔生の強い種がほとんどであった。一方、地表徘徊性の種は、コウチュウ目のゴミムシ類やハネカクシ類、ハチ目のアリ類を除きほとんど確認されなかった。

これは、住吉干潟（中洲）が出水時には冠水するため、地表徘徊性の種の生息環境としては不適であること、植生のほとんどがヨシ群落、アイアシ群落といったイネ科の湿性植物群落で占められ、餌や生活空間として活用される植物の多様性が低いこと等が原因であると考えられる。

但し、前年度までと異なり、中洲の中央付近に堆砂が認められ、帰化植物を始め多くの植物の新規生育があった。今後、これらの植物が定着すると、これを利用する昆虫類が増加する可能性もある。

③ 右岸ヨシ原

右岸ヨシ原で確認された昆虫類は 6 目 26 科 34 種であった。満潮時に冠水するヨシ原という単調な植生であることから確認種数は少なかった。

確認種はハエ目、チョウ目といった飛翔生の種がほとんどであった。他の地区では確認されているバツタ目が全く確認されていなかった。これは満潮時にほぼ全域が冠水するためである

と考えられる。

④ グラウンド脇

グラウンド脇で確認された昆虫類は 9 目 55 科 102 種であった。人工裸地(グラウンド)とヨシ原に挟まれた狭い場所であることから確認種数は多くはなかった。

確認種は、バッタ目やカメムシ目の占める割合が他の地区と比べて高かった。これは、いわゆる樹木が無く、ヨモギやイネ科雑草が生育している乾性草地環境を反映しているものと考えられる。

⑤ 住吉干潟（岸部）

右岸干潟で確認された昆虫類は、8 目 43 科 164 種であった。

本調査地点では、上流から流下したと考えられるニワハンミョウが採集された。

(3) 貴重な種

本調査で確認された貴重種はルイスハンミョウ1種であった。

選定基準については以下の表7-1-4に示す。

表7-1-4 昆虫類貴重種

種名	選定基準	
	I	II
ルイスハンミョウ	VU	NT

選定基準

- I：改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 I（維管束植物）（環境庁：2000年）の該当種
VU：絶滅危惧 II 類 絶滅の危機が増大している種
- II：徳島県の絶滅のおそれのある野生生物—徳島県版レッドデータブック（徳島県：2001年）の該当種
- NT：準絶滅危惧 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

本種は本州、四国、九州、朝鮮半島、済州島、中国北部に分布する、河口の砂泥質海岸に生息が局限されるハンミョウ類の一種であり、河川及び海浜工事（護岸）・埋め立てなどによる環境悪化・生息地の破壊によって個体数が減少している。体長15～18mm。体背面はやや青緑光沢のある黒色を呈するが変化が多い。体腹面や脚は光沢のある青緑ないし青紫色を呈する。上翅には目立つ白黄色の曲玉模様があり、この模様で近似のニワハンミョウなどと区別できる。

徳島県では、徳島市の吉野川河口域から勝浦川河口域まで生息していたが、多産地であった津田海岸は埋め立てられ、生息地は消滅した。沖ノ洲海岸も、現在の多産地となっている地域が流通港湾第二期工事で埋め立てられる予定になっているが、四国で唯一の産地で、全国的に見ても、最も個体数の多い生息地となっており、極めて貴重な場所であることを認識する必要がある。

① ルイスハンミョウ

ア. 成虫の確認状況

右岸住吉干潟，住吉中洲，河口干潟において確認された成虫の個体数は、表7-1-5のとおりであった。吉野川河口干潟における確認個体数の変化を図7-1-4に示した。

右岸および住吉中洲での確認数は、僅かであり2地区の合計でも10個体に満たなかった。吉野川河口干潟（中洲）では、調査期間中確認個体数が0～807と大幅に変動するが、4月から10月の間は毎回確認されている。本年の成虫出現状況として、5月調査時に春季のピークがみられ、その後個体数が減少し、再び8月上旬から中旬にかけて夏季のピークが認められた。また、台風通過後は個体数の激減が認められた。また、冬季～早春季に該当する2月，3月の調査時に河口干潟において、成虫越冬したとみられるものがそれぞれ1個体確認された。

河口干潟は規模が広大なため汀線延長も長い。このため生息適地であるとみられる場所が広範囲にあり、個体数の多い時期では干潟（中洲）の各所で確認された。ルイスハンミョウの成虫は、汀線付近の湿った砂地を中心に活発に行動するが、強風時には漂着ゴミの周囲や風裏となる側の汀線を好む傾向がみられる。

成虫個体の平面的な分布例として、807個体が確認された際の確認状況を図7-1-5に示した。

なお、平成16年度と比較して、本年度の調査では非常に多くの個体が確認された。

表7-1-5 ルイスハンミョウ成虫の確認数

調査期日	吉野川河口干潟	住吉右岸 (グラウンド横)	住吉中洲	備考
平成17年4月	73	0	0	
平成17年5月	123	1	2	
平成17年6月	26	0	0	
平成17年7月	6	0	0	
平成17年8月	117	0	1	
平成17年8月	807	—	—	22日マーキング調査
平成17年9月	244	3	0	台風11号通過後
平成17年10月	6	0	0	台風14号通過後
平成17年11月	0	0	0	
平成17年12月	0	0	0	
平成18年1月	0	0	0	
平成18年2月	1	0	0	
平成18年3月	1	0	0	

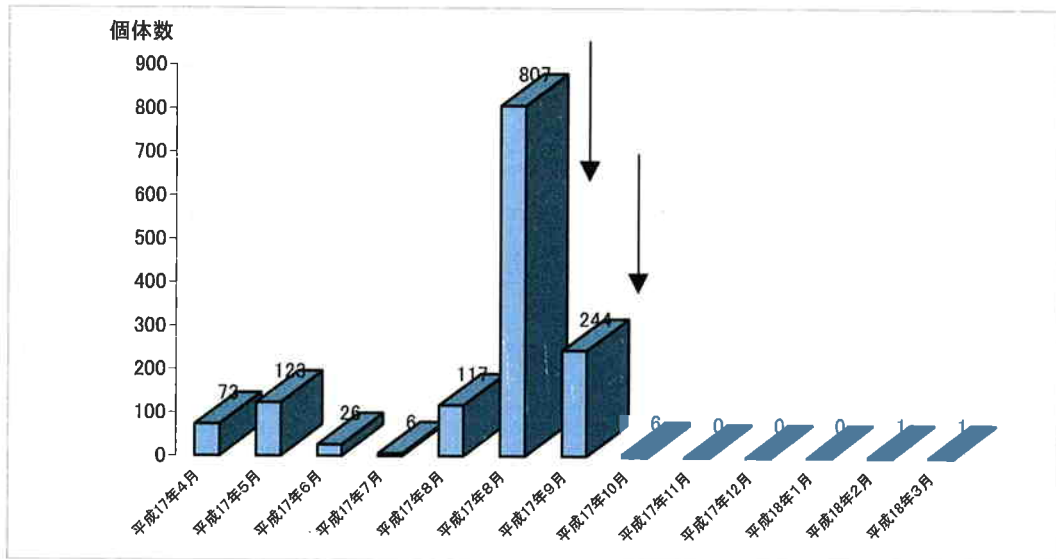


図7-1-4 吉野川河口干潟での個体数変動(平成17年度)

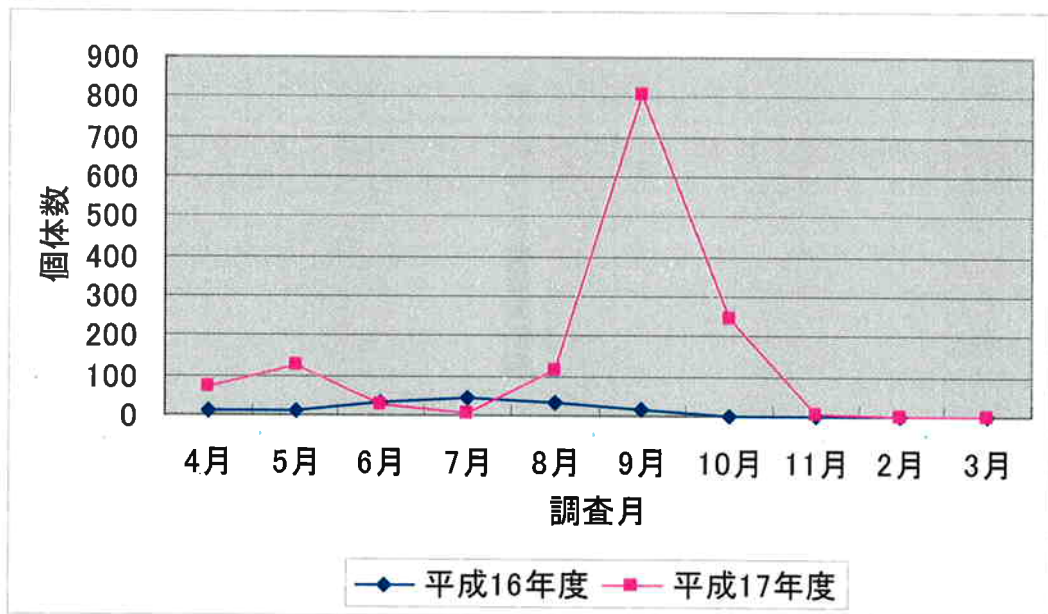


図7-1-5 吉野川河口干潟での個体数変動の比較(平成16年度～平成17年度)

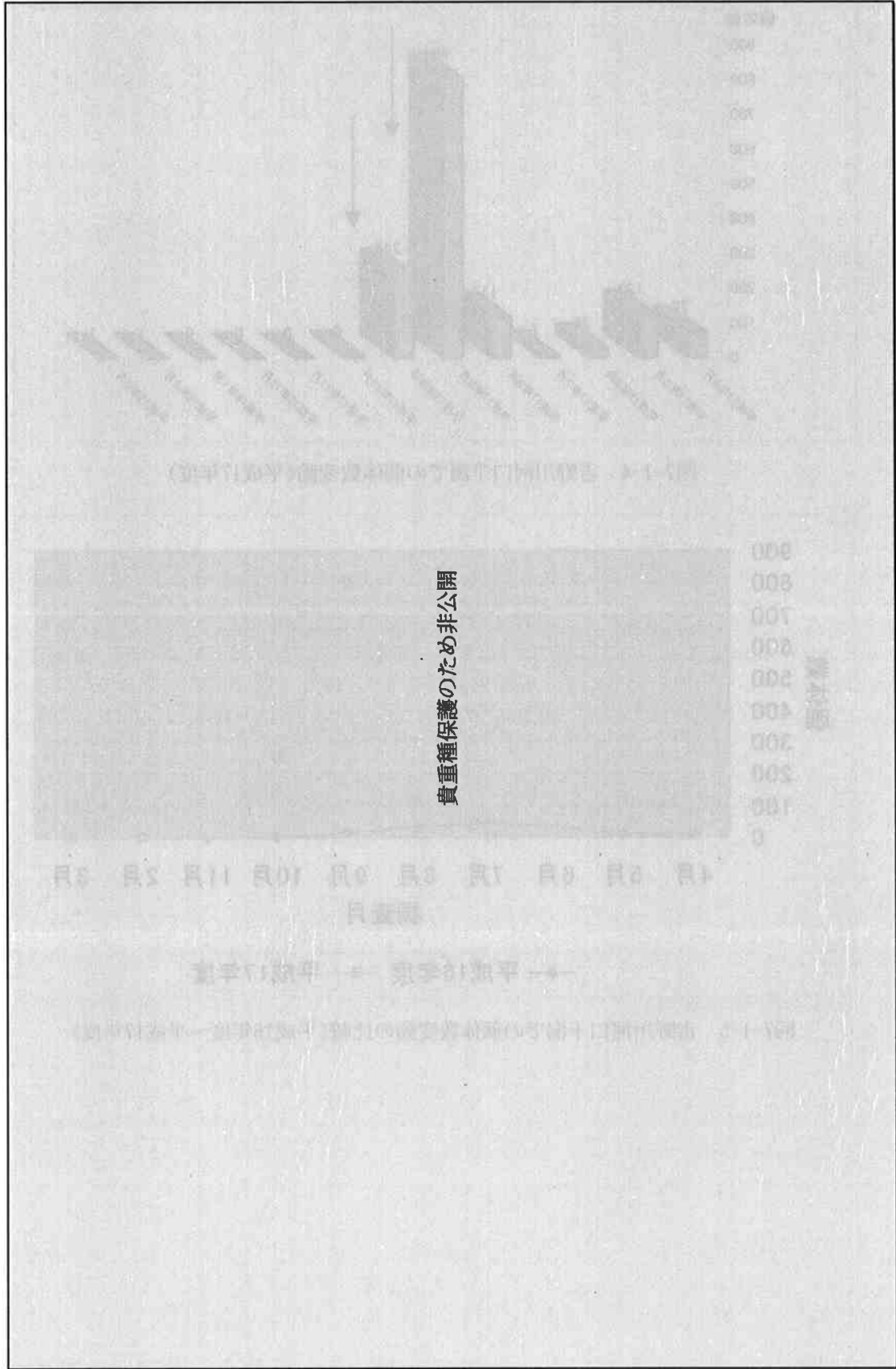


図7-1-6 成虫個体数最大時の確認状況（平成17年8月11日マーキング調査時）

イ. 幼虫・巣坑分布状況

巣坑およびハンミョウ類幼虫確認されたのは、河口干潟と住吉中洲の2地区であった。ここでは、ルイスハンミョウとみられる大型の幼虫、および大口径の巣坑が確認された。住吉右岸では、巣坑および幼虫とも確認することはできなかった。

巣坑確認のしやすさについては、調査前および調査時の天候や、砂の湿り気などによって大きく左右される。巣坑確認位置では、巣坑の開口が常時認められなくとも、基盤の流失などが無い限り、羽化するまで幼虫は生存すると考えられる。

各地区での確認状況は以下のとおりであった。

・河口干潟

巣坑および幼虫は、第2回目～第9回目（12月）の調査で確認された（平成18年1月時点の暫定）。図7-1-7に第5回調査時における巣坑分布範囲を、図中に示した位置での巣坑密度は表7-1-6のとおりであった。

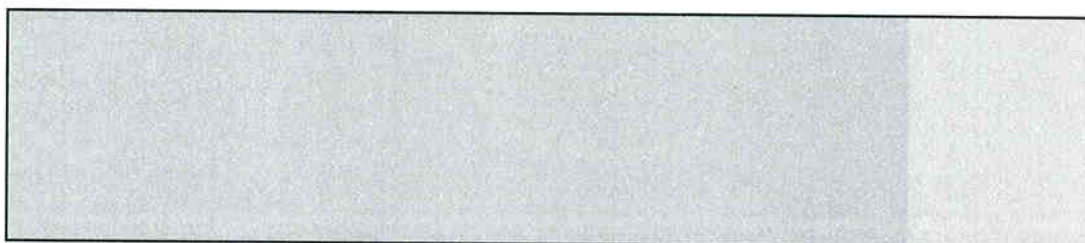


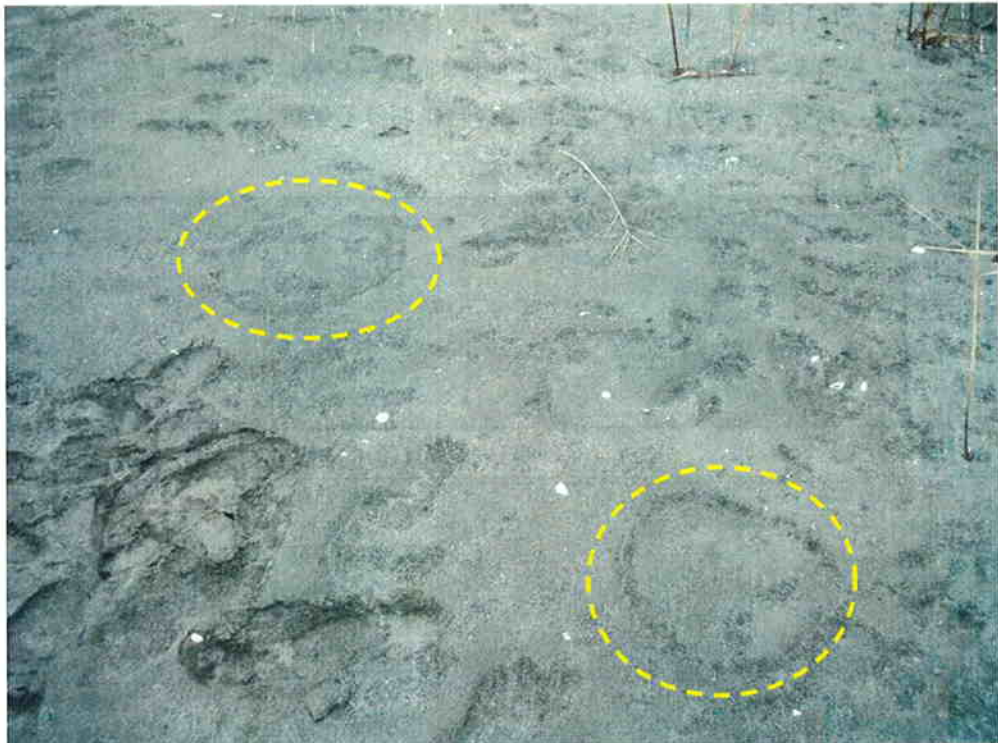
表7-1-6 巣坑密度（第5回調査時—河口干潟）

地点	巣坑口径 (mm 範囲)	密度等
A	2.0-2.9	2×2m 12個 最大 50cm×50cm 5個
B	4.1-4.6	3×3m 14個 最大 50cm×50cm 6個
C	4.1-4.7	2×3m 15個 最大 50cm×50cm 6個
D	3.1-4.8	2×6m 17個 最大 50cm×50cm 5個
E	2.4-4.7	2×5m 17個 最大 50cm×50cm 6個
F	4.1-5.0	2×5m 17個 最大 50cm×50cm 3個
G	4.1-4.7	3×3m 12個 最大 50cm×50cm 8~13個
H	3.0-4.8	2×5m 23個 最大 50cm×50cm 7個
I-1	1.9-3.1	3×3m 9個 最大 50cm×50cm 2個
I-2	2.7-4.1	3×3m 11個 最大 50cm×50cm 5個
J	1.0-3.1	2×2m 145個 最大 10cm×10cm 7個
K	4.1-4.7	3×5m 10個 最大 50cm×50cm 3個

網掛けは、エリザハンミョウの幼虫分布域を示す。

第2回目から第5回目にかけて大口径（4mm以上）の巣坑が各所で確認されたが、台風11号通過後の第6回目（9月3日）、台風14号通過後の第7回目（10月1日）の調査時には巣坑そのものを目にするのが少なく、大口径のものは確認できなかった。その後10月7日の不定期、生息環境調査時以降に再び大口径の巣坑を確認できたがその数は全体で10個未満と僅かであった。

また、巣坑確認箇所のマーキングによって第8回目（11月2日）に活動が確認された大口径の巣坑も第9回目（12月2日）には、巣坑が閉塞しているのが確認された。（写真）



11月2日マーキング箇所－巣坑の閉塞（平成17年12月2日撮影）

・住吉中州

第5回目の調査時にはじめて大口径（4mm以上）の巣坑が中洲南側の中間部分5箇所で見計11個確認された。確認位置では、巣坑頂部での砂の弾き飛ばし、また、掘り起こしによっても20mm程度の大型の個体（黒変した死体）が確認された。

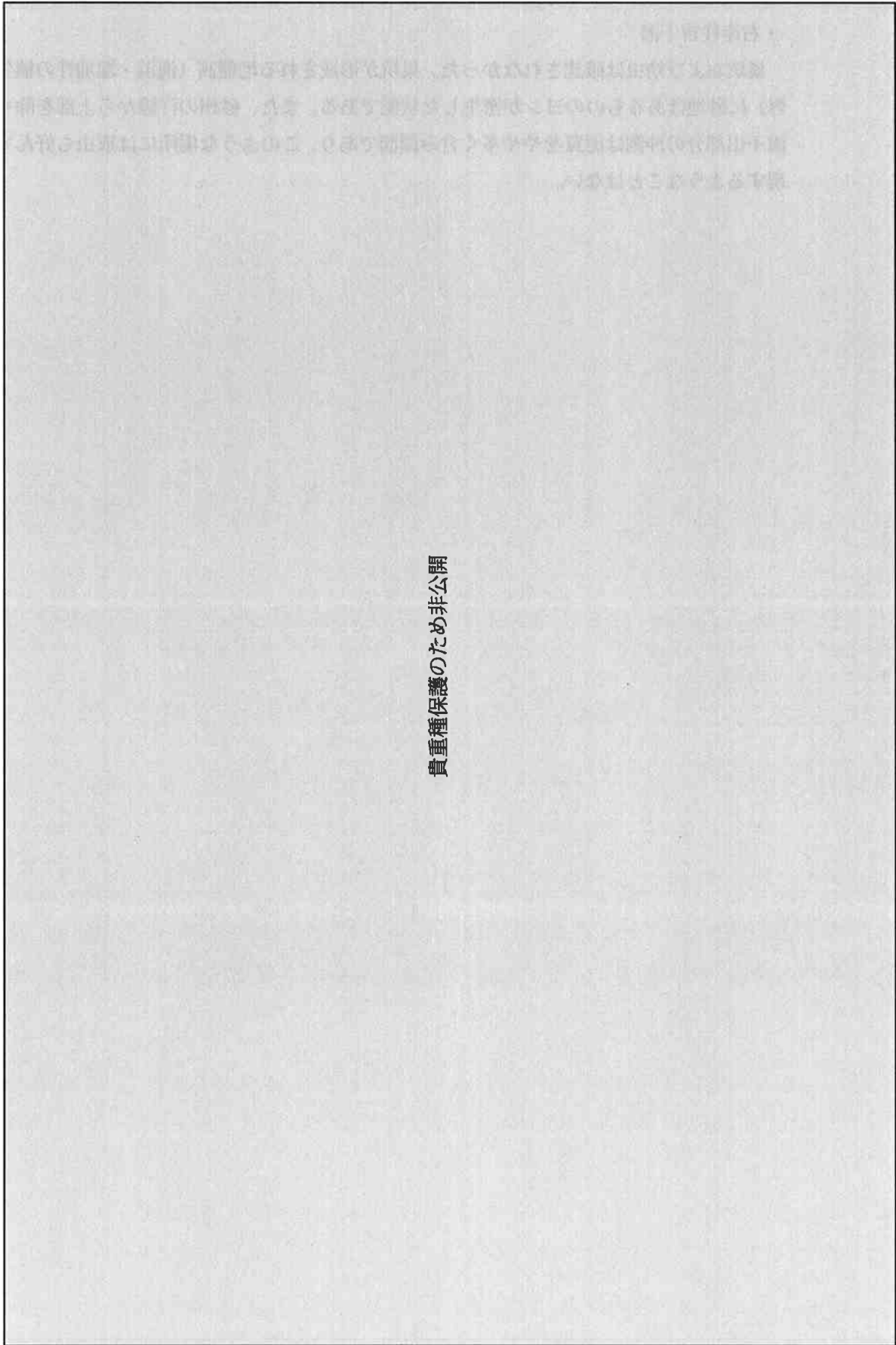
エリザハンミョウの巣坑および幼虫は、第8回目（11月2日）以降で第10回（1月27日）を除き各回で確認された。確認位置は、中洲北側で東寄りの1箇所と南側では西寄りに2箇所（計3箇所）であった。

巣坑確認箇所を図7-1-8に示した。

当該地区は、干潮時に中洲東端部に砂質干潟が大きく出現する。成虫の生息環境はある程度広く確保されると考えられるが、幼虫の生息適地である頻りに冠水しない砂地があるのは、巣坑が確認された中洲南側の西寄りと北側の東寄りの一部だけである。

・右岸住吉干潟

巣坑および幼虫は確認されなかった。巣坑が形成される地盤高（海浜・湿地性の植生境界）に砂地はあるもののヨシが密生した状態である。また、砂州の汀線から上部を除く干潟干出部分の沖側は泥質をやや多く含み湿潤であり、このような場所には成虫も好んで出現するようなことはない。



貴重種保護のため非公開

図 7-1-7 巢坑分布範囲 (密度調査地点) -平成 17 年 8 月 4 日-

表7-1-7(1) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	H16	H17
1	トビムシ	トゲトビムシ	トゲトビムシ科の一種			●
2	トンボ	ヤンマ	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i> Brauer	●	●
3		トンボ	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i> (Uhler)	●	●
4			ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i> (Fabricius)	●	●
5	ゴキブリ	チャバネゴキブリ	ツチゴキブリ	<i>Margattea kumamotois kumamotois</i> (Shiraki)	●	●
6			モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i> Asahina	●	●
7	バッタ	ケラ	ケラ	<i>Gryllotalpa fossor</i> Scudder	●	●
8		コオロギ	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus arietulus</i> Saussure	●	●
9			ミツカドコオロギ	<i>Loxoblemmus doenitzi</i> Stein	●	●
10			Loxoblemmus属の一種	<i>Loxoblemmus</i> sp.	●	●
11			シバズ	<i>Pteronemobius mikado</i> (Shiraki)	●	●
12			エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i> (Ohmachi et Matsuura)	●	●
13			ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus mikado</i> (Saussure)	●	●
14			コオロギ科の一種	<i>Gryllidae</i> gen. sp.	●	●
15		マツムシ	マツムシ	<i>Xenogryllus marmoratus</i> (de Haan)	●	●
16		カナタタキ	カナタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i> (Matsumura)	●	●
17		カンタン	ヒロバネカンタン	<i>Oecanthus euryelytra</i> Ichikawa	●	●
18		キリギリス	ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i> (Poda)	●	●
19			ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i> Bey-Bienko	●	●
20			ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i> (Redtenbacher)	●	●
21			コバネササキリ	<i>Conocephalus japonicus</i> (Redtenbacher)	●	●
22			ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i> (Le Guillou)	●	●
23		オンブバッタ	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i> (Motschulsky)	●	●
24		バッタ	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i> (Thunberg)	●	●
25			マダラバッタ	<i>Aiolopus tamulus</i> (Fabricius)	●	●
26			カワラバッタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i> (Saussure)	●	●
27			トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i> Linnaeus	●	●
28			クマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i> Saussure	●	●
29			ハネナガイナゴ	<i>Oxya japonica japonica</i> (Thunberg)	●	●
30			コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i> Shiraki	●	●
31		ヒシバッタ	ハネナガヒシバッタ	<i>Euparattix insularis</i> Bei-Bienko	●	●
32	ハサミムシ	ハサミムシ	ハマベハサミムシ	<i>Anisolabis maritima</i> (Bonelli)	●	●
33			コヒゲジロハサミムシ	<i>Euborellia annulipes</i> (Lucas)	●	●
34			Euborellia属の一種	<i>Euborellia</i> sp.	●	●
35			ヒゲジロハサミムシ	<i>Gonolabis marginalis</i> (Dohrn)	●	●
36			ハサミムシ科の一種	<i>Anisolabididae</i> gen. sp.	●	●
37		オオハサミムシ	オオハサミムシ	<i>Labidura riparia japonica</i> (de Haan)	●	●
38	カメムシ	ウンカ	ウンカ科の一種	<i>Delphacidae</i> gen. sp.	●	●
39			ウンカ科の数種	<i>Delphacidae</i> gen. spp.	●	●
40		アオバハゴロモ	トビイロハゴロモ	<i>Mimophantia maritima</i> Matsumura	●	●
41		アワフキムシ	ハマベアワフキ	<i>Aphrophora maritima</i> Matsumura	●	●
42		ヨコバイ	Macropsis属の一種	<i>Macropsis</i> sp.	●	●
43			ヒメアオズキンヨコバイ	<i>Batracomorphus diminutus</i> (Matsumura)	●	●
44			シマサジヨコバイ	<i>Planaphrodes sahlbergi</i> (Signoret)	●	●
45			オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i> (Linnaeus)	●	●
46			オオトガリヨコバイ	<i>Doratulina grandis</i> (Matsumura)	●	●
47			ヨコバイ科の一種	<i>Deltocephalidae</i> gen. sp.	●	●
48			ヨコバイ科の数種	<i>Deltocephalidae</i> gen. spp.	●	●
49		マツモムシ	コマツモムシ	<i>Anisops ogasawarensis</i> Matsumura	●	●
50		カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ	<i>Adelphocoris suturalis</i> (Jakovlev)	●	●
51			Lygocoris属の一種	<i>Lygocoris</i> sp.	●	●
52			アカスジカスミカメ	<i>Stenotus rubrovittatus</i> (Matsumura)	●	●
53			ウスモンミドリカスミカメ	<i>Taylorilygus pallidulus</i> (Blanchard)	●	●

表7-1-7(2) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	H16	H17
54			ヒメホソミドリカスミカメ	<i>Tigonotylus tenuis</i> (Reuter)	●	●
55			Pilophorus属の一種	<i>Pilophorus</i> sp.	●	●
56			カスミカメムシ科の一種	<i>Miridae</i> gen. sp.	●	●
57		マキバサシガメ	ハネナガマキバサシガメ	<i>Nabis stenoferus</i> Hsiao	●	●
58		ハナカメムシ	Amphiareus属の一種	<i>Amphiareus</i> sp.	●	●
59		サシガメ	トビイロサシガメ	<i>Oncocephalus assimilis</i> Reuter	●	●
60			モモボトトビイロサシガメ	<i>Oncocephalus femoratus</i> Reuter	●	●
61		イトカメムシ	イトカメムシ	<i>Yemma exilis</i> Horvath	●	●
62		ナガカメムシ	ヒメマダラナガカメムシ	<i>Graptostethus servus</i> (Fabricius)	●	●
63			Nysius属の一種	<i>Nysius</i> sp.	●	●
64			Cymus属の一種	<i>Cymus</i> sp.	●	●
65			コバネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus pallipes</i> (Distant)	●	●
66			ヒメオオメカメムシ	<i>Geocoris proteus</i> Distant	●	●
67			サビヒョウタンナガカメムシ	<i>Pamerarma rustica</i> (Scott)	●	●
68			アカアシホソナガカメムシ	<i>Paromius pallidus</i> (Montrouzier)	●	●
69			ナガカメムシ科の一種	<i>Lygaeidae</i> gen. sp.	●	●
70		ホシカメムシ	クロホシカメムシ	<i>Pyrrhocoris sinuaticollis</i> Reuter	●	●
71		オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ	<i>Physopelta cincticollis</i> Stal	●	●
72			オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i> (Burmeister)	●	●
73		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i> (Dallas)	●	●
74			ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus clavatus</i> (Thunberg)	●	●
75		ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i> (Thunberg)	●	●
76			ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i> (Dallas)	●	●
77		ヒメヘリカメムシ	アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus maculatus</i> (Fieber)	●	●
78			ブチヒゲヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonevrosus</i> (Goeze)	●	●
79		ツチカメムシ	マルツチカメムシ	<i>Aethus nigritus</i> (Fabricius)	●	●
80			ヒメツチカメムシ	<i>Geotomus pygmaeus</i> (Dallas)	●	●
81			ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i> (Scott)	●	●
82		カメムシ	オオクロカメムシ	<i>Scotinophara horvathi</i> Distant	●	●
83			イネクロカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> (Burmeister)	●	●
84			ブチヒゲカメムシ	<i>Dolycoris baccalum</i> (Linnaeus)	●	●
85			マルシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris guttiger</i> (Thunberg)	●	●
86			ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i> Walker	●	●
87			フタテンカメムシ	<i>Laprius gastricus</i> (Thunberg)	●	●
88			イチモンジカメムシ	<i>Piezodorus hybneri</i> (Gmelin)	●	●
89			チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i> Scott	●	●
90			アオクサカメムシ			●
91			シロヘリクチフトカメムシ	<i>Andrallus spinidens</i> (Fabricius)	●	●
92	アミメカゲロウ	ヒメカゲロウ	Micromus属の一種	<i>Micromus</i> sp.	●	●
93		クサカゲロウ	クモンクサカゲロウ	<i>Chrysopa formosa</i> Brauer	●	●
94			キントキクサカゲロウ	<i>Brinckochrysa kintoki</i> (Okamoto)	●	●
95	コウチュウ	ハンミョウ	エリザハンミョウ	<i>Cicindela elisae elisae</i> Motschulsky	●	●
96			ルイスハンミョウ	<i>Cicindela lewisi</i> Bates	●	●
97			ニワハンミョウ			●
98		オサムシ	オオアオミズギワゴミムシ	<i>Bembidion lissonotum</i> Bates	●	●
99			アトオビコムズギワゴミムシ	<i>Macrotachys recurvicollis</i> (Andrewes)	●	●
100			ウスオビコムズギワゴミムシ	<i>Paratachys sericans</i> (Bates)	●	●
101			オビモンコムズギワゴミムシ	<i>Tachyura ceylanica</i> (Nitener)	●	●
102			ウスモンコムズギワゴミムシ	<i>Tachyura fuscicauda</i> (Bates)	●	●
103			ヨツモンコムズギワゴミムシ	<i>Tachyura laetifica</i> (Bates)	●	●
104			トックリナガゴミムシ	<i>Pterostichus haptoderoides japonensis</i> Lutshnik	●	●
105			コガシラナガゴミムシ	<i>Pterostichus microcephalus</i> (Motschulsky)	●	●
106			アシミゾナガゴミムシ	<i>Pterostichus sulcitaris</i> Morawitz	●	●

表7-1-7(3) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	H16	H17
107			セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i> (Schaller)	●	●
108			オオヒラタゴミムシ	<i>Platynus magnus</i> (Bates)	●	●
109			マルガタツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus arcuaticollis</i> (Motschulsky)	●	●
110			キアシマルガタゴミムシ	<i>Amara ampliata</i> (Bates)	●	●
111			マルガタゴミムシ	<i>Amara chalcites</i> Dejean	●	●
112			コアオマルガタゴミムシ	<i>Amara chalcophaea</i> Bates	●	●
113			ニセマルガタゴミムシ	<i>Amara congrua</i> Morawitz	●	●
114			オオマルガタゴミムシ	<i>Amara gigantea</i> (Motschulsky)	●	●
115			ヒメツヤマルガタゴミムシ	<i>Amara nipponica</i> Habu	●	●
116			オオゴモクムシ	<i>Harpalus capito</i> Morawitz	●	●
117			ハコダテゴモクムシ	<i>Harpalus discrepans</i> Morawitz	●	●
118			オオズケゴモクムシ	<i>Harpalus eous</i> Tschitscherine	●	●
119			ケウスゴモクムシ	<i>Harpalus griseus</i> (Panzer)	●	●
120			ニセクロゴモクムシ	<i>Harpalus simplicidens</i> Schauburger	●	●
121			ウスアカクロゴモクムシ	<i>Harpalus sinicus</i> Hope	●	●
122			アカアシマルガタゴモクムシ	<i>Harpalus tinctulus</i> Bates	●	●
123			コゴモクムシ	<i>Harpalus tridens</i> Morawitz	●	●
124			キイロチビゴモクムシ	<i>Acupalpus inornatus</i> Bates	●	●
125			ツヤマメゴモクムシ	<i>Stenolophus iridicolor</i> Redtenbacher	●	●
126			ムネアカマメゴモクムシ	<i>Stenolophus propinquus</i> Morawitz	●	●
127			アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i> Gebler	●	●
128			アトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius virgulifer</i> Chaudoir	●	●
129			トゲアトキリゴミムシ	<i>Aephnidius adelioides</i> (MacLeay)	●	●
130			スジミズアトキリゴミムシ	<i>Apristus grandis</i> Andrewes	●	●
131			キクビアオアトキリゴミムシ	<i>Lachnolebia cribricollis</i> (Morawitz)	●	●
132			アオヘリホソゴミムシ	<i>Drypta japonica</i> Bates	●	●
133		ゲンゴロウ	チビゲンゴロウ	<i>Guignotus japonicus</i> (Sharp)	●	●
134			コマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus acuminatus</i> Motschulsky	●	●
135			ホソセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus weymarni</i> Balfour-Browne	●	●
136			ハイイロゲンゴロウ	<i>Eretes sticticus</i> (Linnaeus)	●	●
137		ガムシ	Cercyon属の一種	<i>Cercyon</i> sp.	●	●
138			キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i> (Sharp)	●	●
139			ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i> (Fabricius)	●	●
140		エンマムシ	ヒメハマベエンマムシ	<i>Hypocaccus asticus</i> (Lewis)	●	●
141			ハマベエンマムシ	<i>Hypocaccus varians varians</i> (Schmidt)	●	●
142			ニセハマベエンマムシ	<i>Hypocaccus sinae</i> (Marseul)	●	●
143		タマキノコムシ	Agathidium属の一種	<i>Agathidium</i> sp.	●	●
144		ハネカクシ	チビクロセスジハネカクシ	<i>Anotylus latiusculus</i> (Kraatz)	●	●
145			キバネニセコムシメソハネカクシ	<i>Carpelimus siamensis</i> (Fauvel)	●	●
146			ニセコムシメソハネカクシ	<i>Carpelimus vagus</i> (Sharp)	●	●
147			コムシメソハネカクシ	<i>Thinodromus sericatus</i> (Sharp)	●	●
148			クロナガエハネカクシ	<i>Ochtheophilum densipenne</i> (Sharp)	●	●
149			アオバアリガタハネカクシ	<i>Paederus fuscipes</i> (Curtis)	●	●
150			アカウミベハネカクシ	<i>Cafius rufescens</i> Sharp	●	●
151			Philonthus属の一種	<i>Philonthus</i> sp.	●	●
152			ウミベアカバハネカクシ	<i>Phucobius simulator</i> Sharp	●	●
153			Sepedophilus属の一種	<i>Sepedophilus</i> sp.	●	●
154			Tachyporus属の一種	<i>Tachyporus</i> sp.	●	●
155			フタモンヒゲフトハネカクシ	<i>Aleochara bipustulata</i> Linnaeus	●	●
156			ホソセスジヒゲフトハネカクシ	<i>Aleochara trisulcata</i> Weise	●	●
157		マルハナノミ	トビイロマルハナノミ	<i>Scirtes japonicus</i> Kiesenwetter	●	●
158		コガネムシ	ヤマトケシマグソコガネ	<i>Psammodytes japonicus</i> Harold	●	●
159			クロコガネ	<i>Holotrichia kiotoensis</i> Brenske	●	●

表7-1-7(4) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	H16	H17
160			シロスジコガネ	<i>Polyphylla albolineata</i> (Motschulsky)	●	●
161			アカピロウドコガネ	<i>Maladera castanea</i> (Arrow)	●	●
162			アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa albopilosa</i> (Hope)	●	●
163			ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> (Hope)	●	●
164			サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> Harold	●	●
165			ヒメサクラコガネ	<i>Anomala geniculata</i> (Motschulsky)	●	●
166			ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> Motschulsky	●	●
167		マルトゲムシ	シラフチビマルトゲムシ	<i>Simplocaria bicolor</i> Pic	●	●
168		コメツキムシ	サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i> (Motschulsky)	●	●
169			ヒメサビキコリ	<i>Agrypnus scrofa</i> (Candeze)	●	●
170			Agrypnus属の一種	<i>Agrypnus</i> sp.	●	●
171			スナサビキコリ	<i>Meristhus niponensis</i> Lewis	●	●
172			Melanotus属の一種	<i>Melanotus</i> sp.	●	●
173			アカアシコハナコメツキ	<i>Paracardiophorus sequens</i> (Candeze)	●	●
174			Paracardiophorus属の一種	<i>Paracardiophorus</i> sp.	●	●
175		ジョウカイボン	セボシジョウカイ	<i>Athemus vitellinus</i> (Kiesenwetter)	●	●
176		ジョウカイモドキ	ヒロオビジョウカイモドキ	<i>Laius historio</i> Kiesenwetter	●	●
177			クロキオビジョウカイモドキ	<i>Laius niponicus</i> Lewis	●	●
178			ルリキオビジョウカイモドキ	<i>Laius takaraensis</i> Nakane	●	●
179			ツマキアオジョウカイモドキ	<i>Malachius prolongatus</i> Motschulsky	●	●
180		ケシキスイ	ツヤチビヒラタケシキスイ	<i>Haptoncus concolor</i> Murray	●	●
181			モンチビヒラタケシキスイ	<i>Haptoncus ocularis</i> (Fairmaire)	●	●
182			アカマダラケシキスイ	<i>Lasiodactylus pictus</i> (MacLeay)	●	●
183		ヒメハナムシ	アカボシチビヒメハナムシ	<i>Stilbus bipustulatus</i> Champion	●	●
184		テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ	<i>Ancylopus pictus asiaticus</i> Strohecker	●	●
185		テントウムシ	セスジヒメテントウ	<i>Nephus patagiatus</i> (Lewis)	●	●
186			クロヘリヒメテントウ	<i>Scymnus hoffmanni</i> Weise	●	●
187			ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i> Linnaeus	●	●
188			マクガタテントウ	<i>Coccinula crotchi</i> (Lewis)	●	●
189			ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i> (Pallas)	●	●
190			ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i> (Thunberg)	●	●
191		ヒメマキムシ	ウスケシマキムシ	<i>Corticaria japonica</i> Reitter	●	●
192			クロオビケシマキムシ	<i>Corticaria ornata</i> Reitter	●	●
193			ノコヒメマキムシ	<i>Corticaria serrata</i> (Paykull)	●	●
194			ウスチャケシマキムシ	<i>Corticaria gibbosa</i> (Herbst)	●	●
195		コキノコムシ	チャイロコキノコムシ	<i>Typhaea stercorea</i> (Linnaeus)	●	●
196		カミキリモドキ	ハイイロカミキリモドキ	<i>Eobia cinereipennis cinereipennis</i> (Motschulsky)	●	●
197			アオカミキリモドキ	<i>Xanthochroa waterhousei</i> Harold	●	●
198		アリモドキ	クロホソアリモドキ	<i>Anthicus baicalicus</i> Mulsant	●	●
199			ホソクビアリモドキ	<i>Formicomus braminus coiffaiti</i> Bonadona	●	●
200			ホソアシツカク	<i>Mecynotarsus tenuipes</i> Champion	●	●
201			ヨツボシホソアリモドキ	<i>Pseudoleptaleus valgipes</i> (Marseul)	●	●
202		ゴミムシダマシ	マルチビゴミムシダマシ	<i>Caedius marinus</i> Marseul	●	●
203			ヤマトスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum coenosum</i> Kaszab	●	●
204			コスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum coriaceum</i> Motschulsky	●	●
205			ヒメスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum persimile</i> (Lewis)	●	●
206			オオスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum pubens</i> Marseul	●	●
207			ハマヒョウタンゴミムシダマシ	<i>Idisia ornata</i> Pascoe	●	●
208			ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ	<i>Idisia vestita</i> Marseul	●	●
209			クロズハマベゴミムシダマシ	<i>Epiphaleria atriceps</i> Lewis	●	●
210			ホソハマベゴミムシダマシ	<i>Micropedinus algae</i> Lewis	●	●
211			ヒメホソハマベゴミムシダマシ	<i>Micropedinus pallidipennis</i> Lewis	●	●
212			キイロテントウゴミムシダマシ	<i>Leiochrodes masidai</i> Nakane	●	●

表7-1-7(5) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	H16	H17
213			オオエグリゴミムシダマシ	<i>Uloma lewisi</i> Nakane	●	●
214			スジコガシラゴミムシダマシ	<i>Heterotarsus carinula</i> Marseul	●	●
215		ハムシ	アオバネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i> (Motschulsky)	●	●
216			ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i> (Mannerheim)	●	●
217			ヤナギルリハムシ	<i>Plagiodera versicolora</i> (Laicharting)	●	●
218			ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i> (Faldermann)	●	●
219			ウリハムシ	<i>Aulacophora indica</i> (Gmelin)	●	●
220			カミナリハムシ	<i>Altica cyanea</i> (Weber)	●	●
221			ヒサゴトビハムシ	<i>Chaetocnema ingenua</i> (Baly)	●	●
222		ホソクチゾウムシ	モンチビゾウムシ	<i>Nanophyes pallipes</i> Roelofs	●	●
223		ゾウムシ	トビイロヒョウタンゾウムシ	<i>Scepticus uniformis</i> Kono	●	●
224			アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i> (Gyllenhal)	●	●
225		オサゾウムシ	シバオサゾウムシ	<i>Sphenophorus venatus vestitus</i> Chittenden	●	●
226	ハチ	ハバチ	ハバチ科の一種	<i>Tenthredinidae</i> gen. sp.	●	●
227		コマユバチ	コマユバチ科の一種	<i>Braconidae</i> gen. sp.	●	●
228		ヒメバチ	ヒメバチ科の一種	<i>Ichneumonidae</i> gen. sp.	●	●
229		ツチバチ	コモンツチバチ	<i>Scolia decorata ventralis</i> Smith	●	●
230			オオモンツチバチ	<i>Scolia histrionica japonica</i> Smith	●	●
231		アリ	Hypoponera属の一種	<i>Hypoponera</i> sp.	●	●
232			ハリブトシリアゲアリ	<i>Crematogaster matsumurai</i> Forel	●	●
233			ムネボソアリ	<i>Leptothorax congruus</i> Fr. Smith	●	●
234			Leptothorax属の一種	<i>Leptothorax</i> sp.	●	●
235			クロヒメアリ	<i>Monomorium chinense</i> Santschi	●	●
236			ヒメアリ	<i>Monomorium intrudens</i> Fr. Smith	●	●
237			アミメアリ	<i>Pristomyrmex pungens</i> Mayr	●	●
238			トフシアリ	<i>Solenopsis japonica</i> (Wheeler)	●	●
239			トビイロシワアリ	<i>Tetramorium caespitum</i> (Linnaeus)	●	●
240			ルリアリ	<i>Iridomyrmex itoi</i> Forel	●	●
241			トビイロケアリ	<i>Lasius niger</i> (Linnaeus)	●	●
242			アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i> (Fr. Smith)	●	●
243			サクラアリ	<i>Paratrechina sakurae</i> (Ito)	●	●
244		ドロバチ	ミカドドロバチ	<i>Eudoynerus nipanicus nipanicus</i> Schulthess	●	●
245		アナバチ	アナバチ科の一種	<i>Sphecidae</i> gen. sp.	●	●
246		ミツバチ	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana</i> Fabricius	●	●
247			セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i> Linnaeus	●	●
248	ハエ	ガガンボ	ヒメガガンボ亜科の一種	<i>Limoniinae</i> gen. sp.	●	●
249		チョウバエ	チョウバエ科の一種	<i>Psychodidae</i> gen. sp.	●	●
250		ヌカカ	イソヌカカ	<i>Culicoides circumscriptus</i> Kieffer	●	●
251		ユスリカ	ユスリカ亜科の一種	<i>Chironominae</i> gen. sp.	●	●
252			ユスリカ科の数種	<i>Chironomidae</i> gen. spp.	●	●
253		ケバエ	メスアカケバエ	<i>Bibio rufiventris</i> (Duda)	●	●
254		キノコバエ	キノコバエ科の一種	<i>Mycetophilidae</i> gen. sp.	●	●
255		クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科の一種	<i>Sciaridae</i> gen. sp.	●	●
256		ミズアブ	ハラキンミズアブ	<i>Microchrysa flaviventris</i> (Wiedermann)	●	●
257		ツリアブ	スキバツリアブ	<i>Villa limbata</i> (Coquillett)	●	●
258		ツルギアブ	シロツルギアブ	<i>Spiriverpa argentata</i> (Matsumura)	●	●
259			ツルギアブ科の一種	<i>Therevidae</i> gen. sp.	●	●
260		ムシヒキアブ	ハマベコムシヒキ	<i>Stichopogon infuscatus</i> Bezzi	●	●
261		オドリバエ	オドリバエ科の一種	<i>Empididae</i> gen. sp.	●	●
262			オドリバエ科の数種	<i>Empididae</i> gen. spp.	●	●
263		アシナガバエ	アシナガバエ科の一種	<i>Dolichopodidae</i> gen. sp.	●	●
264		ハナアブ	トゲヒメヒラタアブ	<i>Ischiodon scutellaris</i> (Fabricius)	●	●
265			フタホシヒラタアブ	<i>Metasyrphus corollae</i> (Fabricius)	●	●

表7-1-7(6) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	H16	H17
266			ナミホシヒラタアブ	<i>Metasyrphus ferquens</i> Matsumura	●	●
267			ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i> (Thompson)	●	●
268			ホシツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma scalare</i> (Fabricius)	●	●
269			Platycheirus属の一種	<i>Platycheirus</i> sp.	●	●
270			キアシマメヒラタアブ	<i>Paragus haemorrhous</i> Meigen	●	●
271			シママメヒラタアブ	<i>Paragus fasciatus</i> Coquillett	●	●
272		ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ	<i>Sepedon aenescens</i> Wiedemann	●	●
273		ハマベバエ	ハマベバエ	<i>Coelopa frigida</i> (Fabricius)	●	●
274		シマバエ	シマバエ科の一種	<i>Lauxaniidae</i> gen. sp.	●	●
275		ハモグリバエ	ハモグリバエ科の一種	<i>Agromyzidae</i> gen. sp.	●	●
276		キモグリバエ	キモグリバエ科の一種	<i>Chloropidae</i> gen. sp.	●	●
277		ミギワバエ	<i>Scatella paludum</i>	<i>Scatella paludum</i> (Meigen)	●	●
278			Scatella属の一種	<i>Scatella</i> sp.	●	●
279			Setacera属の一種	<i>Setacera</i> sp.	●	●
280			ミギワバエ科の一種	<i>Ephydriidae</i> gen. sp.	●	●
281		ショウジョウバエ	Drosophila属の一種	<i>Drosophila</i> sp.	●	●
282			コフキヒメショウジョウバエ	<i>Scaptomyza pallida</i> (Zetterstedt)	●	●
283		トゲハネバエ	トゲハネバエ科の一種	<i>Heleomyzidae</i> gen. sp.	●	●
284		ハヤトビバエ	ハヤトビバエ科の一種	<i>Sphaeroceridae</i> gen. sp.	●	●
285		ハナバエ	タネバエ	<i>Delia platura</i> (Meigen)	●	●
286			ハナバエ科の数種	<i>Anthomyiidae</i> gen. spp.	●	●
287		ヒメイエバエ	クロヒメイエバエ	<i>Fannia prisca</i> Stein	●	●
288		イエバエ	オオイエバエ	<i>Muscina stabulans</i> (Fallen)	●	●
289			イネクキイエバエ	<i>Atherigona oryzae</i> Malloch	●	●
290			トウヨウカトリバエ	<i>Lispe orientalis</i> Wiedemann	●	●
291			シナホソカトリバエ	<i>Lispe sinica</i> (De Geer)	●	●
292			ヘリグロハナレメイバエ	<i>Orchisia costata</i> (Meigen)	●	●
293			イエバエ科の一種	<i>Muscidae</i> gen. sp.	●	●
294		クロバエ	ヒロズキンバエ	<i>Lucilia sericata</i> Meigen	●	●
295			ツマグロキンバエ	<i>Stomorhina obsoleta</i> (Wiedemann)	●	●
296		ニクバエ	Metopia属の一種	<i>Metopia</i> sp.	●	●
297			ハネボシスナニクバエ	<i>Phylloteles stackelbergi</i> Rohdendorf	●	●
298			ホンシュウホソニクバエ	<i>Goniophyto honshuensis</i> Rohdendorf	●	●
299			ホリニクバエ	<i>Bellieriomima horii</i> (Kano)	●	●
300			シリグロニクバエ	<i>Helicophagella melanura</i> (Meigen)	●	●
301			ハマベニクバエ	<i>Leucomyia cinerea</i> (Fabricius)	●	●
302			コニクバエ	<i>Pierretia ugamskii</i> (Rohdendorf)	●	●
303			イソニクバエ	<i>Sarcophaga brevicornis</i> (Ho)	●	●
304			ナミニクバエ	<i>Sarcophaga similis</i> (Meade)	●	●
305			Sarcophaga属の一種	<i>Sarcophaga</i> sp.	●	●
306			ニクバエ科の一種	<i>Sarcophagidae</i> gen. sp.	●	●
307		ヤドリバエ	ヤドリバエ科の一種	<i>Tachinidae</i> gen. sp.	●	●
308	トビケラ	シマトビケラ	オオシマトビケラ	<i>Macronema radiatum</i> MacLachlan	●	●
309	チョウ	ボクトウガ	ハイイロボクトウ	<i>Phragmataecia castaneae</i> (Hubner)	●	●
310		ハマキガ	チャハマキ	<i>Homona magnanima</i> Diakonoff	●	●
311			セモンカギバヒメハマキ	<i>Ancylis mandarinana</i> Walsingham	●	●
312			ハマキガ科の数種	<i>Tortricidae</i> gen. spp.	●	●
313		ヒロズコガ	マエモンクロヒロズコガ	<i>Monopis monachella</i> (Hubner)	●	●
314		スガ	コナガ	<i>Plutella xylostella</i> (Linnaeus)	●	●
315			マサキスガ	<i>Yponomeuta meguronis</i> Matsumura	●	●
316		マルハキバガ	マルハキバガ科の一種	<i>Oecophoridae</i> gen. sp.	●	●
317		ヒゲナガキバガ	フタクロボシキバガ	<i>Odites issikii</i> (Takahashi)	●	●
318		キバガ	キバガ科の一種	<i>Gelechiidae</i> gen. sp.	●	●

表7-1-7(6) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	H16	H17
319		メイガ	オオメイガ亜科の一種	<i>Schoenobiinae gen. sp.</i>	●	●
320			ヨシツトガ	<i>Chilo luteellus</i> (Motschulsky)	●	●
321			クロフタオビツトガ	<i>Neopediasia mixtalis</i> (Walker)	●	
322			ツトガ亜科の一種	<i>Crambinae gen. sp.</i>	●	●
323			アカウスグロノメイガ	<i>Bradina angustalis pryeri</i> Yamanaka	●	●
324			シロテンウスグロノメイガ	<i>Bradina atopalis</i> (Walker)	●	●
325			コブノメイガ	<i>Cnaphalocrocis medinalis</i> (Guenee)	●	●
326			クロオビクロノメイガ	<i>Herpetogramma licarsisalis</i> (Walker)	●	●
327			モンキクロノメイガ	<i>Herpetogramma luctuosalis zelleri</i> (Bremer)	●	●
328			マエキノメイガ	<i>Herpetogramma rudis</i> (Warren)	●	●
329			マエアカスカシノメイガ	<i>Palpita nigropunctalis</i> (Bremer)	●	●
330			タテシマノメイガ	<i>Sclerocona acutella</i> (Eversmann)	●	●
331			シロオビノメイガ	<i>Spoladea recurvalis</i> (Fabricius)	●	●
332			マメノメイガ			●
333			チャモンノメイガ	<i>Udea stigmatalis</i> (Wileman)	●	●
334			ノメイガ亜科の一種	<i>Pyraustinae gen. sp.</i>	●	
335			ヒメマダラミズメイガ	<i>Elophila turbata</i> (Butler)	●	●
336			ツマグロシマメイガ	<i>Arippara indicator</i> Walker	●	●
337			カバイロトガリメイガ	<i>Endotricha theonalis</i> (Walker)	●	●
338			アカマダラメイガ	<i>Oncocera semirubella</i> (Scopoli)	●	●
339			マダラメイガ亜科の一種	<i>Phycitinae gen. sp.</i>	●	●
340		トリバガ	ナカノホソトリバ	<i>Fuscoptilia emarginata</i> (Snellen)	●	●
341		セセリチョウ	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i> (Bremer et Grey)	●	●
342			チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i> Evans	●	●
343		シロチョウ	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i> Motschulsky	●	●
344			モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i> (Boisduval)	●	●
345		シジミチョウ	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i> (Matsumura)	●	●
346		タテハチョウ	ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i> (Linnaeus)	●	●
347			キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i> (Linnaeus)	●	●
348		シャクガ	コウスアオシャク	<i>Chlorissa obliterata</i> (Walker)	●	●
349			ウスキヒメシャク	<i>Idaea biselata</i> (Hufnagel)	●	●
350			オオウスモンキヒメシャク	<i>Idaea imbecilla</i> Inoue	●	●
351			キトガリヒメシャク	<i>Scopula emissaria</i> (Walker)	●	●
352			ナミスジチビヒメシャク	<i>Scopula personata</i> (Prout)	●	●
353			ヒメシャク亜科の数種	<i>Sterrhinae gen. spp.</i>	●	●
354			トビスジヒメナミシャク	<i>Orthonama obstipata</i> (Fabricius)	●	●
355			キエダシャク	<i>Auaxa sulphurea</i> (Butler)	●	
356			ヒロオビトンボエダシャク	<i>Cystidia truncangulata</i> Wehrli	●	●
357			ツマジロエダシャク	<i>Krananda latimarginaria</i> Leech	●	●
358			エグリツマエダシャク	<i>Odontopera arida arida</i> (Butler)	●	●
359			ウスネズミエダシャク	<i>Tephрина vapulata</i> (Butler)	●	●
360		スズメガ	エビガラスズメ	<i>Agrius convolvuli</i> (Linnaeus)	●	●
361			ホシホウジャク	<i>Macroglossum pyrrhosticta</i> Butler	●	●
362			クロホウジャク	<i>Macroglossum saga</i> Butler	●	●
363			コスズメ	<i>Theretra japonica</i> (Boisduval)	●	●
364		ドクガ	ヒメシロモンドクガ	<i>Orgyia thyellina</i> Butler	●	
365			ヤクシマドクガ	<i>Orgyia triangularis</i> Nomura	●	●
366			ウチジロマイマイ	<i>Parocneria furva</i> (Leech)	●	●
367		コブガ	クロスジシロコブガ	<i>Nola taeniata</i> Snellen	●	●
368		ヤガ	オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera</i> (Hubner)	●	●
369			タバコガ	<i>Helicoverpa assulta</i> (Guenee)	●	●
370			タマナヤガ	<i>Agrotis ipsilon</i> (Hufnagel)	●	●
371			カブラヤガ	<i>Agrotis segetum</i> (Denis et Schiffermuller)	●	●

表7-1-7(7) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	H16	H17
372			オオカブラヤガ	<i>Agrotis tokionis</i> Butler	●	●
373			オオバコヤガ	<i>Diarsia canescens</i> (Butler)	●	●
374			ウスイロアカフヤガ	<i>Diarsia ruficauda</i> (Warren)	●	●
375			クロクモヤガ	<i>Hermonassa cecilia</i> Butler	●	●
376			ニセタマナヤガ	<i>Peridroma saucia</i> (Hubner)	●	●
377			アトジロキヨトウ	<i>Mythimna compta</i> (Moore)	●	●
378			マメチャイロキヨトウ	<i>Mythimna consanguis</i> (Guenee)	●	●
379			クサシロキヨトウ	<i>Mythimna loreyi</i> (Duponchel)	●	●
380			アワヨトウ	<i>Mythimna separata</i> (Walker)	●	●
381			スジシロキヨトウ	<i>Mythimna striata</i> (Leech)	●	●
382			シロシタヨトウ	<i>Sarcopolia illoba</i> (Butler)	●	●
383			ヒメサビスジヨトウ	<i>Athetis stellata</i> (Moore)	●	●
384			オオホシミミヨトウ	<i>Condica illecta</i> (Walker)	●	●
385			マエホシヨトウ	<i>Pyrrhivalva sordida</i> (Butler)	●	●
386			クシナシスジキリヨトウ	<i>Spodoptera cilium</i> Guenee	●	●
387			シロイチモジヨトウ	<i>Spodoptera exigua</i> (Hubner)	●	●
388			ハスモンヨトウ	<i>Spodoptera litura</i> (Fabricius)	●	●
389			シロナヨトウ	<i>Spodoptera mauritia acronyctoides</i> (Guenee)	●	●
390			シロスジアオヨトウ	<i>Trachea atriplicis gunama</i> (Butler)	●	●
391			ヤマトホソヤガ	<i>Lophoptera hayesi</i> Sugi	●	●
392			ヒメシロテンコヤガ	<i>Amyna axis</i> (Guenee)	●	●
393			Hyposada属の一種	<i>Hyposada</i> sp.	●	
394			ヨモギコヤガ	<i>Phyllophila obliterata</i> (Rambur)	●	●
395			フタトガリコヤガ	<i>Xanthodes transversa</i> Guenee	●	●
396			ミツモンキンウワバ	<i>Ctenoplusia agnata</i> (Staudinger)	●	●
397			エゾギクキンウワバ	<i>Ctenoplusia albostrigata</i> (Bremer et Grey)	●	●
398			イラクサギンウワバ	<i>Trichoplusia ni</i> (Hubner)	●	●
399			フクラスズメ	<i>Arcte coerula</i> (Guenee)	●	●
400			ホソオビアシブトクチバ	<i>Dysgonia arctotaenia</i> (Guenee)	●	●
401			ナカジロシタバ	<i>Aedia leucomelas</i> (Linnaeus)	●	●
402			ヒメエグリバ	<i>Oraesia emarginata</i> (Fabricius)	●	●
403			クロスジヒメアツバ	<i>Schrankia costaestrigalis</i> (Stephens)	●	●
404			トビモンアツバ	<i>Hypena indicatalis</i> Walker	●	●
405			オオシラナミアツバ	<i>Hipoepa fractalis</i> (Guenee)	●	●
406			ソトウスグロアツバ	<i>Hydrillodes lentalis</i> Guenee	●	●

12目 122科 406種

注1：表中のツトガ亜科の一種については、報告書作成後に少なくともマエジロツトガとフタスジキノツトガが含まれていることが判明した。

注2：前年度確認されているエンスイミズメイガについては、本調査時に採取されなかったため表中には記載されていないが、今年度についても調査時以外に採取された標本により、生息が確認されている。

7-1-5. 平成 17 年度調査の総括

(1) 調査地区の比較

確認された昆虫類は、河口干潟で最も多く 13 目 112 科 388 種、次いで住吉干潟(岸部)の 8 目 43 科 164 種、グラウンド脇の 9 目 55 科 102 種、住吉干潟(中州)の 11 目 46 科 84 種となっている。

河口干潟は内陸部に冠水しない丘状の地形があり、クスノキ等の樹木を初め、様々な種類が認められており、昆虫相も多様性に富んでいるものと思われる。これに対し、住吉干潟(中州)は出水時に冠水するため地表徘徊性の種の生息環境としては不適であることと、植生のほとんどがヨシ群落、アイアシ群落といったイネ科の湿性植物群落で占められており、昆虫相の多様性が低くなっている。

また、右岸ヨシ原は満潮時にほぼ全域が冠水すること、グラウンド脇は樹木が無く、ヨモギやイネ科雑草が生育していること、住吉干潟(右岸)は人為的な影響が大きく面積も狭いことから、昆虫類の生息環境が限られているものと考えられる。

(2) 重要な種の生息状況

重要な主として、ルイスハンミョウが確認された。ルイスハンミョウの成虫は、右岸住吉干潟、住吉中州、河口干潟で確認されている。右岸住吉干潟及び住吉中州では概ね 10 個体に満たない確認数であったが、河口干潟では最大 807 個体が確認されている。成虫の出現状況としては、5 月に春季のピークがみられ、その後個体数が減少し、再び 8 月に夏季のピークが認められた。また、2 月、3 月にも河口干潟において成虫越冬したとみられる各 1 個体が確認された。

